

# いなほ

第122号

2022年4月20日

NPO 法人 萌

代表 渡多江文哉

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所 工房いなほ

相談支援事業所 ふかや

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

URL <http://www.mo-e.jp>

## あいさつについて

以前、アスペルガー障害かもしれないと思われた利用者がいた。(今はパレット会社で働いている) 出会った頃は「おはようございます」と言ってもうつむいて通り過ぎて行っただけだった。挨拶もしないのかとは思ったことはない。あいさつは心から出るもので、強制されるものではないから。

よく、幼子に(悪いことをした)時に、「ごめんなさいしなさい」と言っている母親を目にすることがある。強制されて、本当は悪いと思っていないのに、「ごめんなさい」と言っても意味が無いように思うのだ。では、どうやって「ごめんなさい」を教えるのか？それは、こちらが使う事によって体得されるのではないか？

あいさつができないその方に、わたしは5年間「おはようございます」「お疲れ様でした」と言い続けた。挨拶ぐらいしなさいとは言わなかった。そしてようやく、小さな声で「おはようございます」と言うようになった時に、とても感動したのを思い出す。

「おはようございます」と言えば、朝から元気になる。「ありがとう」と言われれば、ほっとする。ある時に手伝いに来ていた次男から、何かをとった時だと思うが「ありがとう」と言われて感動した。その言葉に心が和んだ。残念の事に、あまり萌で言われたことがないからか・・・

言葉は人と人とを紡いでいく手段の一つである。「おはようございます」で始まり、「お疲れ様」は終わりを現わす表現である、ここに仕事という形がおさまるわけだ。何か伝えた時に「わかりました」と言う時、本当に分かっていないのに、口先だけで言っているとつか、ボロが出る。そして、信用は失われていく。「言葉」は表現である。

ある日、仕事を一緒にしていた利用者さんに「あなたこれやって」と言ったら、「名前を呼んで」と言われた。「言葉」は関係を現わす。相互が認め合って「言葉」が「言葉」になる。おはよう、お疲れ様…この当たり前の言葉が当たり前に言えていく、このことが明るい職場を作っていく第一歩ではないか？わたしが挨拶と書かずにあいさつと書いているのは、このあいさつがビジネスマナーとしての挨拶とは違うからである。云う事が苦手な人は手をあげるだけでも、あいさつなのだ。形ではなく、人と人との出会いの中にあいさつはあると思う。

(渡多江久美子記)

## 萌日記 2021. 2.21~3.31

なかなか収束しないコロナ禍（日本では第7波～8波？）、ウクライナ侵攻などの戦乱。世界の動きにも心を痛めるこの頃です。

・畑は、所長が中心になって利用者とともにジャガイモの植え付けや春野菜の種まきが進んでいます。畑に藍や花を植えたりもしています。



パレットは今日も大忙し

・以前パレット会社で働いていた方が、職員として加わりました。一方で辞めた職員もいます。

・パレット製作には宿命的に多くの廃材が出ます。廃材はお引き取り頂ける方にはお譲りしますが処分することも必要になります。その処分方法は、今までのコンテナに貯めて引き取りを依頼する形から、こちらから処分業者に持ち込む形に変更する予定です。持ち込みが可能になるような廃材の整理など、今まで以上に5S（整理整頓・・・）の徹底が必要になります。

・新しい利用者をお迎えするために、養護学校を訪問しています。

・竹林の整備の仕事がありました（3/15など）。

・3/20 支払から工賃の支払い基準をよりわかりやすくした文書を配布しました。

・大正地区センターでの「食品配布会」に利用者Oさんが、事前準備（3/20）に加えて配布当日にも初参加（3/21）。実行委の会議にも最近は参加しており、地域の他のメンバーとも徐々に顔見知りになっています。

・手術を要する病気になった利用者があり、通院付き添いなどで支援しました。本人は回復に向けて、軽度の作業で復帰しています。

・利用者ミーティングを試みました。いなほの利用者、職員の結束を深めるなどを目的に昼休み終わりに開いてきました。今は、新たな方策を模索中です。

・3/24 に運送事業の許可が下りました。ようやく「みやけ」がスタートします。（岡）



ノート PC 大量入荷。手間のかかる作業です



すくすくと育つ野菜たち

## 作業のなかから、生活支援を行うこと

いなほの利用者でグループホームを追われた方がいる。原因は、呼んでも食事をとりに来ない。トイレを流さない。入浴が早すぎるなど、グループホームからの訴えは多岐にわたった。それが次第に世話人と利用者からの厄介者扱いへと変わっていった。

何故彼が集団生活を守れなかったかという、まずは①ゲームに依存した生活を送っていたから。②に①の原因ともつながるが、自分の欲求が優先され、他人を顧みれないというところが、世話人利用者両者からの厄介者扱いへと変わっていったのではないかと感じる。

本人は他者から感謝されることに喜びを見出したり、所属感を求めているところがあるにもかかわらず、自分の要求が優先されてしまう。いなほでも他の利用者から彼の利己的な性質を疎む声が上がりに始めている矢先であった。

いなほは就労の現場でありゲームは無いから良いが、②の自分の本能的な欲求よりも他者から認められるような支援を行うことが優先された。

利用者だけで作業ができない理由を説明し、職員と作業を行うことは意欲的になる方なので、3ヶ月をめでに工場内で製材を行った。また作業着を身に着け職業準備性を身に着け、他者から見える彼の見方を変えることを行った。パレット班利用者からの苦情は減ってきた。しかし根本の自分の欲求を満たすことが優先されることについてはすぐには改善されないままだ。(關)



竹の粉碎作業。竹粉は肥料に活用されます

## チラシ寿司

3月3日はひな祭り。いなほではチラシ寿司を利用者と一緒に作りました。

エビや野菜などの具材を炒め煮し、卵は薄焼きから錦糸卵を作ります。ご飯が炊けたら酢飯を作り、具材と混ぜて錦糸卵をあわせて出来上がり。わかめスープを添えました。利用者、職員でいただきました。

さまざまな年中行事があり、それにちなんだ食事会をいなほでも独歩でもよく開いています。年中行事を意識することは、「社会の中で生きる」こととどこかにつながっているんじゃないかな、などと筆者は考えるのです。職員体制など、食事会などの実施は必ずしも簡単ではないですが、今後ともなるべく続けていきたいです。(岡)



\*\*\*非鉄金属の仕事を考える\*\*\*工房いなほの問題点\*

ここ2か月非鉄金属の解体売り上げが1か月で1万か2万である。会社からあまりに出荷が少ないので、どうなっているのかと問い合わせがありました。これは由々しき事態だと思いミーティングを開きました。(4月19日に)パレットは発注会社から100台出荷だと注文が来たら、100台です。こちらの都合で80台にはできません。非鉄班にはそういう状況がわかっていなかった(わかるようにしてこなかった)というのが実情です。職員としては月どれくらい出荷して、どれくらいの売り上げになっているか意識し、それを利用者にはっきりということです。

利用者に何のためにいなほに来たのかを聞いてみました。

「工賃のため」「仕事をしに来ている」「自分の成長のため」「やりがいを求めて」「体調が悪くて非鉄にいる」工賃と答えた方がやはり多いです。次は「成長のため」です。

工賃を求めるなら、作業日数や仕事を時間を考えなくてははいけません。今まで、非鉄班には非鉄班事態では売り上げが少ないので、パレット売り上げから補填していました。しかし、今回はパレット班が本当に遅くまで残り、一生懸命やっているのに、売り上げ自体が1万~2万の所に補填するのはあまりじゃないかと思い、ミーティングで実情を伝えました。

生産量を増やすなら、ある程度は流れ作業が必要です。今は一人ですべてやっています。一人でやるのはやりがいはありますが、ともすれば、自分の世界



にこもり、自分流にできます。ただ、自分の目標がきちんとないと、それで終わりです。変化はありません。仕事には必ずやらなくてはいけないことがあります。決まりもあります。それが今、工房いなほでは曖昧になっている気がします。それが、利用者の問題であることは、職員の問題でもあることです。仕事意識がない気がします。これは両者ともに考えていく必要があります。

いつも、稼働日には必ず来て4時までやってくれています。

みなさんへ もっと明るく働きましょう

(波多江久美子記)



水道メーターは大体、月8万です。

## 私の支援について

去年 M さんという一人の女性に出会いました。最近 M さんはいなほを退所していきましたが、そんな M さんのお話をしたいと思います。

M さんは在宅での仕事を探していましたが、どこの作業所も断られいなほに連絡がきたのが始まりでした。私が初めて支援する事になったのですが、知的障害で引きこもりとパニック障害を患っているという事しか最初は分かりませんでした。M さんがどんな人なのか、興味が湧きました。

とは言っても、初めての支援というのは、一体どういう事をすれば良いのかも分からず、どう接していけば良いのかという事も何も分かりませんでした。唯一私も同じパニック障害だった事もあり共感できるのかも知れないという思いと、難しいと分かっていたのですが M さんのパニックを克服させてあげたいという想いがありました。とは言っても、とても難しいという事も、私にそんな事は出来ない程の高望みだという事は充分分かっていました。そんな M さんの仕事提供は、細かい作業が得意という事もあって水道メーターを選びましたが、在宅でという事から、いなほから自宅まで運び、出来た物をいなほまで持って行く。という、少しハードでしたが、それが私の日課となりました。ほんの少しでも時間がある時は、なるべく会話をするように心がけていました。

引きこもりという事もあってほとんどが携帯での生活でした。ミニマリストだとい家具も少なく、物も凄く少なかった為どんな生活をしているのか、というのも見えてこなかったのですが、それでも生活に困っている様子はなかったです。

食生活も、毎日インスタントのカレーをネットで注文していました。そんな毎日に飽きてしまったのか、ヘルパーを利用したいという方向で考えるようになり所長が区分認定を申請してくれたのですが、待ち望んでいたのもつかの間、認定がおきて喜んでくれたのは最初だけだったと思います。いつかは自分でという区役所からの言葉に M さんの心境は代わっていきました。電子レンジで作れるレシピ本を買ったので自炊する事に決めたとヘルパーも 1 か月も経たないうちに突然断わり、趣味だというパソコンで絵を描いたり作文を書く副業を突然専念したいといなほを退所すると言われました。

所長のパソコンのメールにも、M さんの抱いていた気持ちが書かれて送られてきました。所長が私に M さんの悪口を言った事を M さんに言ったとありもしない事も書かれていました。関わっていたのは私だったのに M さんの心ないメールを見て、今まで M さんの為に使ってきた時間は一体何だったんだろうと、関わっていた分怒りと悲しみが湧いてきて人を信じられなくなりそうにもなりましたが、なかった事には出来ないで、私はこの件の事を受け入れていきたいと思います。

M さんにとって、いなほを通して何か一つでも学んで、幸せになって欲しいと願っています。M さんありがとうございました。(鷹尾由香)



\*\*\*通信いなほの読者及び会員の皆様へのお願い\*\*\*

萌の理事会が3月4日と立て続けに開催されました。運送事業が3月24日ようやく認可となりました。1年かけた手続でした。年度始めに申請し、昨年9月には認可が下りると言われ、それが12月にとということになり、そして3月ようやく認可が取れました。思っていた以上に時がかさんだこととなります。運送事業はNPOが運営して、福祉の下支えの収益事業となる予定でスタートしていく予定です。

理事会が頻繁に開催された理由は、今年度決算がかなりの赤字になるからだ。赤字の理由は様々あるが、一つには利用者の減少がある。年度途中で定員を30名から20名に変更した。創設当時の利用者は皆高齢化している。いなほの柱のパレットを打てる利用者は少なくなった。今、利用者募集はどこに働きかければよいかがよくわからない。萌の福祉が、どういう方向を目指していくかが問われているということになる。

二つ目はパレット単価の問題。木材価格もガソリン代も高騰しているが、それをすぐには価格には転嫁できない弱みがある。

三つ目は、B型・共同生活援助・計画相談と事業所を広げてきたが、組織体制が追いついてないのが現状である。計画相談とサビ管の両方の資格者は3名いたが、会長が亡くなり2名になった。計画相談に専門員を2名配置すると、正規のサビ管がいなくなる。職員の人材育成がなかなか追いつかないのが現状である。



福祉をやっていくには、その財政基盤がしっかりないといけない。これは前経営陣の私たちの弱点であり続けて、世代交代がそのマイナスを引き継ぐことになった。

会員の皆様は今年度会費の納入をお願いしたいと思います。

また、会長が長年作ってきた通信を初期から100号くらいまでのものを冊子にしていきたいと思えます。100冊を予定しています。この費用を捻出するための寄付金も同時をお願いしたいです。会員と寄付をくださった方には無料で親展いたします。

よろしく申し上げます。 郵便局 00230-2-48581

一人暮らしをしているAさんは、ある日頭が痛いのでお医者に行きますと連絡が入った。後日、血圧が 200 あったそうで、糖尿病、高血圧、高脂血症も併発していることが分かったが、検査データと薬を渡されるだけで、知的障害があるので、理解することは難しかった。

僕たちの支援はここから始まった。障害者を快く診てくれて、職員同行も認めてくれる病院を探した。調理は苦手だったので、食事援助や買い物をしてくれる居宅介護支援を付けた。週 5 日の食事援助としたかったが、障害区分によって支給量が決まるので、週 3 日となった。これで少しは生活習慣病が改善されると安堵した、と思えた。

いままでAさんは 16 時まで、僕たちが運営している事業所で働いていた。しかし、居宅介護支援が始まると、「今日は 1 時で帰ります。15 時にヘルパーさんが来て買い物と調理があるので」と言って帰っていく。ヘルパーさんの訪問時間にAさんの生活を合わせなくてはならないことが分かった。本来、障害福祉サービスは、障害者の地域生活が豊かになるように活用するものであるが、その人の生活はヘルパーの訪問時間に合わせなくてはならないという実態が見えてきた。

居宅介護支援を始めて6カ月、検査数値は下がらない。栄養バランスのよい食事なのにどうして数値が下がらないのだろうか。本人と話し合うが、要領を得ない。しきりに仕事のことを気にしている。

A市の自宅を訪問する。古い市営住宅で、台所と居間は整理されているが、全体に雑然としていた。ひとつの空き部屋があった。遠くに住んでいる兄弟がいつでも帰って泊まれるように空けてあるのだという。けれど何年も帰ってきていないという。A氏自宅を訪ねるのは、ヘルパーさんだけであるようだ。

僕はA氏に病気は母親も同じ病気で亡くなっているのが心配していた。しかし、A氏の思いはそこにはなかった。しきりに仕事のことを気にしていることの意味が少しわかったように思えた。彼は検査データが悪いことも知っていた。どうしたらよいか分からない。それと同時に楽しかった仕事が楽しくなくなった。どうして楽しくなくなったのか、その原因は言葉で表現できないので、抑うつとなったのであろう。僕たちの支援は、彼の心に届いていなかった。ズレた支援であった。

障害福祉支援法によって障害者施策が定まっている。その中で障害者の個別支援計画を立案することが義務付けられている。就労支援、居宅介護支援、共同生活支援などを利用する障害者は各部署で個別支援計画が立案される。各部門の上部に計画相談支援があり、障害福祉サービスを利用するためには計画相談を受けないとサービスが受けられないことが法律で決まった。

計画相談・利用計画—各部門の個別支援計画という体系化が整備されて、支援計画の山となる。支援する一されるの現代版であるが、その線引きは難しい。僕たちも障害支援に関わっている以上、法律を遵守しなくてはならないが、その隙間を塗って福祉をしている。

福祉があるとすれば、その人の生活全体の支援であろう。その人が生きている生活があって、就労と生活を一体的に考えなくてはならないように思う。就労だけ見て生活を見ない。生活を見てそれ以外は見ないという風潮が多いと聞く。障害者施策が、部門別事業所別支援となっているからだと思う。

障害者施策の中においている制度活用を身に着けてしまう。まえ述べた失敗事例がそうである。その人が見ている生活世界を理解していなかった。彼が話していたことが、僕のブラインドによって見えなくしていたのである。

僕は精神医療を離れて福祉の世界に入って10年近くになる。障害者権利条約批准以降、障害者基本法が改定され、障害者差別禁止法が成立した。障害の社会モデル論が脚光を浴びている。意思決定や自己決定論が話題に上がっている。その横で、津久井やまゆり園の事件が起きた。ヘイトクライムが社会の中に蔓延しつつあることが露呈した。

障害者権利という名の下で、部門別事業別支援が行われて、障害者の生活は分断されている。最近、パーソナルアシスタントが議論されているが、もし実施されるとしても、換骨奪胎されて形式的なものになるだろうと予測される。福祉の中に身を置くものにとって、当事者活動を支援しなくてはならないが、まだまだ地域の生活に根付いた在り方が見えないのが現状で、(共に)の重さと難しさがひしひしと感じている。(この原稿は社会臨床学会の機関紙に投稿されたものです。その仲間がこの原稿を郵送してくれました。波多江伯夫が理事長を勤めていた時の原稿です)



**各会員を中心に会長の遺稿通信を発送しましたが、お手元にまだ届いていない方は090-9216-6606 にショートメールを入れてください。**

#### 編集後記

亡くなった会長は本当に良い関係者が多かった。人望があったということか？人を裏切らないタイプの方々である。会長の見まいに訪れる方々を見ていて思った。私には友人というものはいないから、とてもうらやましく映った。私は何を失ったか？必ず電話を取ってくれる人、返してくれる人がもういないということになる。これはさすがに堪える。

昨年11月に入社した職員がもう退職した。次は今年入社した方がもうやめた。具合の悪い会長が数回研修をしていた人だ。「会長との約束だから3年は続けます。理事長と所長を支えたい」と言っていた矢先に辞めた。私の言葉を信じる性善説がまた、崩れた出来事であった。どうして人は本当に思っていないことを口にするのだろう。言ったことは実行しなくてはと思わないでいられるのだろう？亡くなった人との約束をすぐ反故にできるのだろうか？

いったい人の言葉の何を信じればよいのだろう。

そんな中、今の私は工房いなほと利用者として過ごしていることがとても楽しく感じる。至福のひと時だ。本当の言葉のある人がいる。(所長)